

令和 6 年度第 1 回
自転車の活用推進に向けた有識者会議 議事概要

1. 開催日時等

日時 令和 7 年 3 月 2 1 日（金） 1 5 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0
会場 中央合同庁舎第 2 号館 低層棟 共用会議室 1（WEB 併用）
委員 屋井 鉄雄（座長）
入谷 誠、楠田 悦子、高井 幸次郎、高橋 信行（WEB）、内藤 久士、
畑中 絹代、羽原 敬二
行政 警察庁、財務省、スポーツ庁、厚生労働省、経済産業省、環境省、
（対面）国土交通省都市局、観光庁
事務局 国土交通省道路局自転車活用推進本部事務局

2. 委員からの主な意見

令和 6 年度第 1 回委員会では、

- （１）『第 2 次自転車活用推進計画』のフォローアップ
- （２）次期自転車活用推進計画に向けた検討

について議論を行った。

（１）『第 2 次自転車活用推進計画』のフォローアップ

① 『第 2 次自転車活用推進計画』のフォローアップ【資料 1－1】

- ・日本の自転車文化は、欧米と比べて劣っているように見えるが、独自の文化がある。自転車大国、シェアサイクル大国、自転車通勤大国であり、今後はその良さを伸ばしてほしい。（楠田委員）
- ・地方版計画の策定数が目標値に届いていないが、次期計画においても目標を下げることなく推進してほしい。（楠田委員）
- ・中高生の自転車乗車中の事故による死者数について、段階的な目標も設定しつつ、ゼロを目指してはどうか。（楠田委員）

② ナショナルサイクルルートの実現状況【資料 1－2】

- ・走行空間の整備に苦慮している印象。国による支援の仕組みはあるのか。（高橋委員）
- ・ゲートウェイのアクセス性について駐車可能台数など数値の規定はあるのか。今後、基準や目安を定めるとよいのではないか。（畑中委員・屋井座長）

（２）次期自転車活用推進計画に向けた検討

① 次期自転車活用推進計画に向けた検討【資料 2－1】

② 自転車ネットワークの今後の方向性【資料 2－2】

- ・自転車の交通事故に関するデータは、アンケート調査、事故件数以外にあまり

ない。交通安全に寄与するデータの収集について情報通信技術の活用に期待する。(高井委員)

- ・ 地方版計画の策定を働きかけてきたが、策定による成果等について把握・分析できているのか。(入谷委員)
- ・ 自転車を活用することによる健康面の効果・エビデンスについて、国から自治体に情報を提供してほしい。(畑中委員)
- ・ 高齢者が乗りやすい自転車、荷物を運べる自転車、子供を乗せられるカーゴ自転車等を開発できるよう、普通自転車の枠組みやルールの見直しが必要ではないか。(畑中委員)
- ・ 学校の統合が進む中で自転車通学も増えてくる。自転車に関するルールについて中等教育にも盛り込んでいくべきではないか。(畑中委員)
- ・ 日本を自転車で旅したいという海外のニーズを受け入れるため、サイクルツーリズムの更なる推進が必要ではないか。(畑中委員)
- ・ 中高生の自転車通学に焦点を当てた施策を展開してほしい。その際に、文部科学省の協力により、学校教育の中に交通安全の取組を入れていくことが必要である。(楠田委員)
- ・ 地域の回遊性を上げるツール、オーバーツーリズム対策、地域の移動手段として、観光における自転車の活用を推進すべきではないか。(楠田委員)
- ・ 自転車の利用環境として、トイレの視点をに入れてほしい。トイレの利用時間が限られていて、早朝など利用できない場合がある。(内藤委員)
- ・ 自転車活用推進法の基本方針に「青少年の体力の向上」という記載があるが、幼児期からの運動習慣の醸成、自転車への親しみといった捉え方がよいのではないか。(内藤委員)
- ・ 自転車の安全利用の促進にあたって、自転車対歩行者の事故件数が増えている原因と関係性など、基本的なところを分析して固めていく必要がある。(羽原委員)
- ・ 自治体や国が連携してデータを取ってエビデンスを作る、効果を測るということを進めていくべきではないか。(屋井座長)
- ・ 環境・健康・観光といった自転車のポジティブな部分のベースが安全である。走行環境について国交省と警察庁が引き続き協力して進めてほしい。(屋井座長)
- ・ 自転車の利用を増やすため、安全なインフラを作ることが前提にありつつ、健康や環境などと組み合わせて、連携しながら進めていくことが重要ではないか。(屋井座長)

(以上)